

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部別山トサカ尾根東北支稜

日時:1985年7月28日～7月31日

メンバー:、CL 松浦尚、高岸且

概要:85年夏合宿(真砂沢 BC)にて、松浦・高岸パーティは、幻の滝「劔大滝」の偵察のため、下の廊下からトサカ尾根経由、黒部別山までをトレース。トサカ尾根東北支稜突破に猛暑の中、3日を要し水が切れて飴玉さえも口にできないほど涸れあがり、真砂沢に戻ったときは頬がこけていた。傾斜のきつい尾根でのハイマツや石楠花ブッシュとの格闘で、手の皮がむける程。夏期にこの尾根記録は他に見ない。

記録

7月28日 快晴

真砂沢 BC (7:25)－阿曾原－S字峡－十字峡 (15:55)

十字峡へは上流から入る予定だったが、雪渓の状態悪く数パーティが引き返したとの情報を得て、阿曾原分岐から十字峡へ向う。下の廊下の景観は素晴らしいが人間の工事に度肝を抜かれる。道から少し劔沢に入った所で幕営、焚火する。

7月29日 快晴

BP (7:20)－劔沢河床 (9:20)－トサカ沢 (11:50/12:20)－BP (16:15)

最初、踏み跡をたどり右岸の尾根を上がる。あまりにも上がり過ぎるので不安になり下降する。もう少しということであプザイレンすると下は大きな淵。尾根に戻る。赤テープを頼りに下降点らしい所を降りていくと河原に出た。しばらく進むと又左岸を巻く。斜上しながら下降点を探す。泥壁のトラバースで高岸滑落。下で待つ松浦の頭を超えて行くが軽傷であった。このあたりより大滝の爆音がはっきり聞こえる。トサカ沢を過ぎて 河床沿いに大滝までいくことが困難とわかる。地下足袋とわらじがほしくなる。悔しいがあきらめてトサカ尾根に取り付く。水は2人で 5 リットル。尾根を登り始めると大滝が見える。感動した。岩尾根は一瞬だけで、あとは広い急斜面を灌木にすがっては体を引っ張りあげる。この動作を機械のように繰り返すだけであった。今日中に P1711 を越えたかったが手前でダウン。

7月30日 快晴

BP(6:20)－BP(18:40)

一日中、昨日の繰返し。ヤブとはいえ、丈が低く

太陽が頭を直撃する。とにかく暑い、汗が出ない。ボーとしてくる。休憩するといつの間にか眠り込んでいる。途中でアプザイレンを1、2度行う。黒部別山北峰の手前で全く動けなくなる。フキの茎をしがんで口の水分を補う。

7月31日 快晴

BP(6:15)－北峰－黒部別山本峰 7:55－劔沢出合 9:20－真砂沢 BC(10:40)

朝露をなめつつ、北峰に向けて出発する。北峰からは、現れたり消えたり踏跡を辿る。ハシゴ谷乗越の手前で水を求めて、沢筋を降りる。水に出合った時は泣きそうにうれしかった。真砂沢 BC では、他のメンバー(加藤、河辺、佐藤、狩野)が我々の下山が一日遅れたため、待機してしてくれた。

(記／松浦・高岸)

